台風による被害果樹の取扱い

宮下　揆一

はじめに

台風十五号による北海道の果樹の被害は誠に惨恒たるもので、未だかつて見ない大きな災害を受けたが、今後の復興に関して各方面から強力な対策が期待されるわけで、この機会に技術面から見た被害樹の取扱いについて検討して見たいと思う。

まず被害状況を見ると、成つている果実が徹底的に落されたというだけでなく、樹そのものの受けた被害も甚だしく、大きな成木が横倒しになつたり、大きな幹が折れたりしたものが相当多く、また木が倒れないまでも、葉がほとんど吹きちぎられて丁度十一月の末頃のような状態を呈し、この影響は今後数年に及ぶものと考えなければならない。こうした被害樹が多少でも早く快復するように手当をすることがまず大事なことである。

現地を見廻つて見ると、落果の始末や、住居の応急対策で労力の廻りきらないこともあろうが、倒れた樹がそのまま放任されているものが少くないが、これは一日も早く起すことが必要で、長時日を経過すればするほど根が弱つて活着が困難になる。

倒伏した樹・樹幹の折れた樹はどうすべきか

倒伏した樹の手当は大体植え換えの樹を取扱うのと同様でよい。木を起したら丈夫な支柱で支え、それから根が早くしかも深く入るように堆肥を根の切れた側にやや深目に埋めて施すようにすることが望ましい。次に枝はやや強目に切りつめ、花が着いても一～二年は余り実をつけないようにしなければならない。なお乾燥を防ぐために春先になつてから根元に表土が見えない程度の厚さに乾草や麦穀等を敷くことも良い方法である。

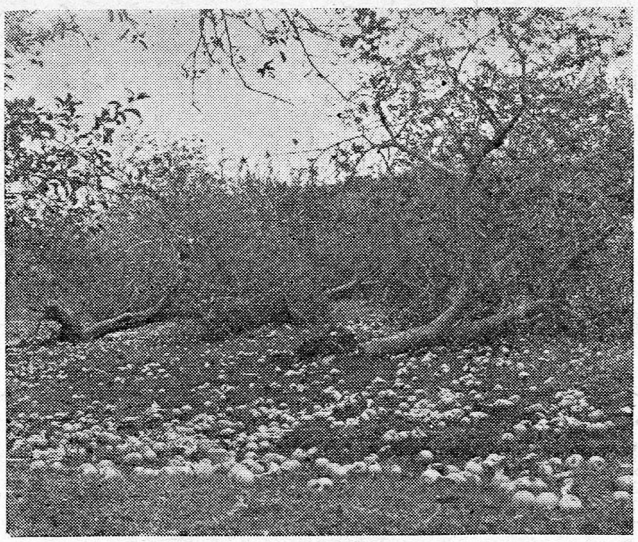
次に枝幹の折れたものは今直ちに切り直すと、冬季間切口から凍つて結果が良くないので、剪定時期になつてから整理するようにするがよい。

なお桜桃に多く見られるように樹の根元から折れたものや、相当老木でしかも品種の良くないものはこの際掘り起して、新しい優良な品種に植え換えるのが得策で、このことは特に雑多な品種の多いりんごにおいても必要である。りんごの植え換え品種としては、一般にデリシャス系統のものがよく、道中央部以北では旭系統のものも適しておる。

樹に對する影響はどうだろう

9月26日の台風によるりんごの落果状態（余市郡大江村）

今回のように九月の末にはほとんどの葉を失つた場合、どういう影響を受けるかについて、生産農家の方々が心配しておりますが、果樹類はすでに来年咲く花芽が出来上つており、りんごやなし等はかなり樹の熟度が進んでおるので、今後の気候が順調でさえあれば、芽出しの時期や開花期が多少遅れる程度で、実の成りについてはまず心配はない。しかし樹の内部の貯蔵養分が少く枝や花芽の熟度が不十分なので、寒害や病害に対する抵抗力が弱く、また結実歩合がおちる傾向が強いので、もし今後の天候が異常で一昨年のように冬季間の寒気が強かつたり、開花時期の気候が不順であつたりするとその影響を強く受けて被害が倍加する結果にもなりかねない。



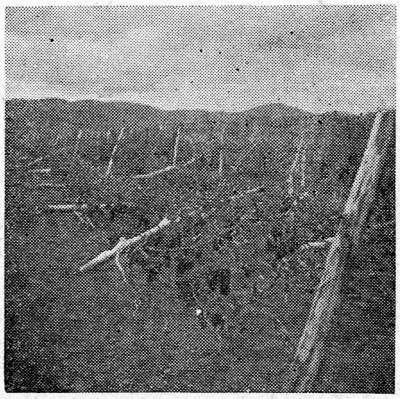
颱風によるりんご倒木（余市郡大江村）

寒害豫防の手段

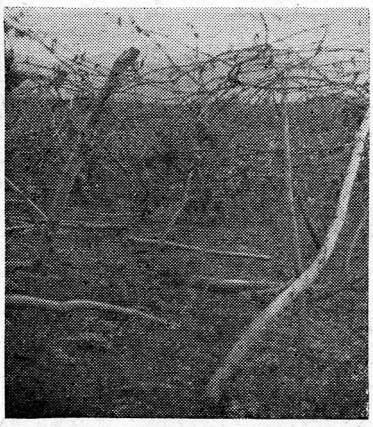
寒害の危険の多い道中央部以北の地方では、太枝の枝又の部分とか、幹の南側の寒さの害を受け易い部分を筵片や藁の類で巻くようにし、また地際の部分には土を盛つて保護することが望ましい。特に北海道では葡萄の地際の部分が寒害を受けて弱り、その弱つたところに根首焼病が発生し易いが、これは晩秋の頃地際の部分に五～六寸の高さに土盛りするか、籾殻等を盛つておくと相当被害を軽減できる。また元来葡萄はりんごやなし等より寒さに弱いので、札幌より北の地方では毎年棚や垣から枝をはずして地面に下し、雪の下で越冬させておるが、今年は道南地方といえども枝の充実が不十分なので棚から全部下して越年させないと、寒害を受ける危険性が多分に生じてくる。なお葡萄は棚下しの際に剪定するのであるが、今年は樹の形よりも枝の熟度に主眼をおいて十分褐色になつた充実した枝を選んで種づるとして残すようにすることが大切である。

被害樹と病蟲害

病害の関係であるが、幹や枝が風のために相当傷ついているのと、木の熟度が不十分なので腐爛病や胴枯病等の被害が多くなる心配があります。それで明年の春は芽出し前に濃厚石灰硫黄合剤を撒布することが必要である。



垣根仕立葡萄の被害（岩内町）



棚仕立葡萄の被害（岩内町）

もし赤ダニやカイガラ虫等の関係で芽出し前に機械油乳剤を使用したい場合はボルドウ油乳剤を撒布するのがよい。これは六斗式の少石灰ボルドウ液にマシン油を所定の濃度に混ぜ合わせたもので、殺虫力はマシン油を単用したものと少しも変りがない。同時に病害の防除をも兼ねられるのである。

樹勢回復の方法

樹勢回復の手段としての肥料であるが、肥料は特に多施する必要はないが、明年はできるだけ早く効かせることが大切で、できれば堆肥のようなものはこの秋の末に施しておき、春先早く速効性の肥料を与えるようにするとよい。なお芽出しから摘果頃まで薬剤を掛ける都度尿素を加えるとよい結果が得られるが、この場合分量は成るべく少い方が安全で大体一斗当り十匁程度とする。

以上風害に傷んだ樹の手入れについて説明したが一カ年間の労苦を一夜にして失つた生産者の方々に心から御見舞申し上げるとともに、この大きな災害を乗り超えて今後の再興に努力されますことを望むものであります。

（筆者は國立北海道農試・農林技官）

禍を轉じて福となす

という言葉があります

今回の台風災害を心よりお見舞申上げますとともに、この機会に果樹類は新優良品種を補植下さつて将来の発展を期していただきたいと存じます。

果樹苗木類新品種は雪印種苗へ